



勲三等瑞宝章 長尾 満氏遺影
大正 10 年 3 月 28 日生
平成 21 年 4 月 27 日逝去 88 歳

故長尾 満 名誉会長を偲んで

社団法人日本建設機械化協会顧問
株式会社拓和顧問

渡 邊 和 夫

去る平成 21 年 4 月 28 日社団法人日本建設機械化協会名誉会長長尾満さんの悲報に接しました。振り返れば長尾さんは、平成 2 年加藤三重次会長の後を継がれ平成 12 年まで 5 期 10 年間会長を務められました。私はその間、専務理事としてお仕えいたしました。長尾さんが加藤さんの後を継がれることになったのは、万人が認める必然性がありました。即ち、わが国の建設機械化の先駆者であり、当協会の生みの親である加藤さんが、戦後のわが国の復興を担う「経済安定本部」に籍を置かれ、そこでわが国における「建設の機械化」の必要性を痛感され、それを推進し始められた当初に、当時大学を卒業後、特別調達庁に勤務されておられた長尾さんを「安本」の建設交通局・計画課に迎え入れられ、公共事業課の加藤さんの手伝いを始められたのが「建設の機械化」に携わるきっかけでありました。その後建設省大臣官房建設機械課の専門官、課長を歴任され土木技術者には珍しく、「建設の機械化」に心血を注がれました。

長尾さんと当協会の関係は、昭和 28 年運営幹事として携わられて以来運営幹事長、各種委員会委員長、部会幹事長、中部支部副支部長、顧問等を歴任され、会長として 10 年の長きに渡り職を全うされました。この 10 年間は世界的にも、わが国としても激動の時代でありました。平成 2 年にはベルリンの壁が解放され、東西ドイツが統一されたのをはじめ、東欧諸国の改革、ソ連共産党の一党独裁の崩壊などがあり、また平成 8 年 1 月には阪神淡路大震災の発生、ペルー日本大使館人質事件などもありました。日本の経済は平成 2 年頃まで急成長を続けて来ましたが、その後、急速に疲労破壊を起し、戦後最大といわれる不況に見舞われた時代でありました。その時期、世論は社会資本の整備にブレーキをかける風潮が蔓延し、公共事業バッシングがニュースをにぎわしている中、今こそこれから到来する高齢化社会、少子化社会に対応するため、良好な社会資本のストックに努める時期であると、機会あるごとに提言されました。

また建設コスト縮減が提唱されている中、わが国の建設に対する研究開発費の少なさにも警鐘を鳴らされ、特に建設省の予算は大きいと土木研究所の予算が少ないことを憂えておられました。協会に

においては、平成4年より建設技術に貢献した新しい技術の開発を促進するため会長賞を、及び加藤三重次前会長の功績を記念して加藤賞（論文賞）を設立して建設技術の発展に貢献されました。

当協会が、創立時から開催してきました建設機械の展示会を国際的なものにせよとの、ご下命があり、平成4年度建設機械展示会を国際的に通用する“CONNECT '92”と命名し、海外にも積極的にPRして、成功裏に開催しました。以来「CONET」の名前は国際的にも認知されるようになりました。

長尾さんといえばゴルフと結びつけられる方が多いと思います。長尾さんを語るうえでゴルフは避けて通れません。建設省時代は、誰もが認める省内きってのナンバーワン・ゴルファーでした。その上達法は伝説にさえなっております。ゴルフを始められてまもなく、関東地方建設局四号国道工事事務所（当時春日部市）の所長時代には荻窪の自宅を毎朝四時前に出て、途中のゴルフ練習場に立ち寄り、出勤前に毎日2～3時間の練習を重ねられたと聞いております。その際、一切家庭と役所には迷惑をかけないという方針で、誰にも気づかれないようにそっと家を出て、定刻前には事務所に入ったそうです。その結果、後に中国地方建設局に勤務されたときには、広島某ゴルフクラブで倶楽部チャンピオンを獲得されたと聞いております。ある時、長尾さんが自前のクラブを作られるということで、赤坂のショップに同行させて頂きました。そこでスイングのチェックをするために何十回かの試打をしたのですが、すべての打球をクラブの中心で捕らえているとのことで、ショップの人が大変驚いていました。そのときは年齢がすでに75歳前後と思います。すでに往年の全盛期は過ぎておられました。私も協会時代に何回かプレイを一緒にさせて頂きました。私は特にパターが下手なのですが、ある時「渡邊君パターもドライバーも同じスイングだよ」と教えて頂きましたが、未だにマスター出来ずしております。

長尾さんは体力保持にも努力されておられました。お元気な時代には滅多にエスカレータやエレベータを使われなかった。こんな話もあります。国際協力事業団（JICA）の理事の時代、当時JICAは三井新宿ビルの40数階に事務所がありましたが、毎朝エレベータを使わず階段で上ったそうです。所要時間は何分であったかは失念致しましたが、汗びっしょりとなり、理事室で毎日着替えをされたとか。そのときの話では階段の段数は奇数が多いとかで同じ足から常にスタートしては両足の負担が違ってくるので意識してスタート時に右・左を変えたとのことでした。階数が多くなるとそういうことも有るのかなと感心したものでした。

長尾さんのゴルフの話は前述しましたが、協会関係のゴルフ仲間はずでに黄泉の国に入られた方々が多くなりましたが、彼岸の地において、加藤三重次さん、小林元椽さん、坏質さん、森木泰光さん、酒井智好さんなどなど、多くの方々とゴルフ談議やプレイを楽しんでおられることと推測いたします。

昭和28年以来56年の長きに渡り、協会の発展にご尽力された長尾さんに、厚く感謝申し上げます。終わりにあたり心からご冥福をお祈りいたします。

合 掌

略 歴

昭和19年 9月	東京帝国大学第一工学部土木工学科卒業
昭和38年 11月	建設省大臣官房建設機械課長
昭和40年 4月	建設省道路局日本道路公団監理官
昭和42年 2月	建設省中部地方建設局道路部長
昭和43年 7月	建設省大臣官房技術参事官
昭和45年 6月	建設省近畿地方建設局長
昭和47年 6月	建設省土木研究所長
昭和49年 8月	国際協力事業団理事
昭和56年 1月	新構造技術株式会社取締役会長
平成 2年 5月	(社)日本建設機械化協会会長